

視能訓練士学科(昼間部1年制)

9 8 8

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	1年		講義概要	DP1	DP2	DP3	DP4
							前期	後期					
専 門 基 礎 分 野	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	解剖生理学 I Anatomy Physiology I	必修	講義	30	(2)	30		身体の各器官の位置・形状・構造の正常構成と正常機能が理解できるようにする。	◎	○		
		解剖生理学 II Anatomy Physiology II	〃	〃	30	(2)	30		解剖生理学 I の学習をもとに、正常人体と比較し、病気の成り立ちが理解できるようにする。	◎	○		
	疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	臨床心理学 Clinical Psychology	〃	〃	15	(1)		15	心理アセスメントを通し、自らの性格傾向を知ると同時に、検査・治療・訓練を受ける患者の心理を理解し、より良い信頼関係を形成する為の手法が説明できるようにする。	○			◎
		小児病学 Pediatrics	〃	〃	15	(1)	15		小児の生理・発達、及び代表的な全身疾患ならびに精神障害について学習し、症例検討ができるようになる。	◎	○		△
		眼疾病学 Ophthalmic Disease Studies	〃	〃	30	(2)	30		両眼視機能の障害を含め、数々の眼科的疾患及び眼科関連全身疾患について解剖学的部位別に系統立てて学習し、疾患と各種検査の関連の学習や成人と小児の疾患の違いを視能矯正学と関連付けて考えられるようになる。	◎	○		
		看護学概論 Basic Nursing Process	〃	〃	15	(1)	15		看護学の位置づけとその役割を予防医学、清潔不潔の概念や救急処置の方法を通じて学習し、看護師と視能訓練士とのより良い連携を考えられるようになる。	○	○	◎	○
	視 覚 機 能 の 基 礎 と 検 査 機 器	医療光学機器概論 Basic Medical Engineering	〃	〃	30	(2)	30		機器の基本原理・操作・安全性について知識・技術を習得し、新旧の医療機器に対応できるようにする。	○	◎	△	
		数学・統計学・情報処理 Mathematics /Statistics/Information Science	〃	〃	15	(1)	15		統計・確率等の数学的分野を学ぶと同時に医学分野における統計学の必要性を理解し、基礎的な統計処理ができるようになる。		○	◎	
		物理学 Physics	〃	〃	15	(1)	15		物理学の法則や原理について幾何学的に関する分野を中心に学習し、作図や計算ができるようになる。	◎	○	△	
		視器の解剖生理・病理学 Eyeball Anatomy Physiology Mediclics	〃	〃	30	(2)	30		眼球ならびに眼瞼・外眼筋・涙器などの解剖・生理・病理について学習し、各部位の機能が説明できるようにする。	◎	○		
		視器の解剖生理・病理学実習 Eyeball Anatomy Physiology Mediclics (lab)	〃	実習	30	(1)	30		視器に関する様々な検査について学習し、検査を行うことができるようになる。また、正常値の説明や検査結果の評価ができるようになる。	○	◎		
		医療情報学 Medical Informatics	〃	講義	15	(1)		15	医療の仕組み、病院・医院の定義などを学び、医療機関での視能訓練士を取り巻く環境やチーム医療について理解できるようにする。	△		○	◎
	保 健 医 療 福 祉 と 視 覚 障 害 の リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 理 念	関係法規・医学概論 Basic Medicine	〃	〃	15	(1)	15		医学全般を要約しつつ、その進歩の歴史や基本的知識を学ぶ。また視能訓練士法の内容を習熟し特殊専門性の意義を理解できるようにする。	○		○	◎
		視覚障害総論 I Visual Disorder I	〃	〃	15	(1)	15		視覚障害者への理解を深め、眼科リハビリテーションにおける視能訓練士の役割を考えられるようになる。		○		◎
		視覚障害総論 II Visual Disorder II	〃	〃	15	(1)		15	視覚障害に関わる法律、等級、補助具について学び、補助具の選定や情報提供の基礎知識を説明できるようにする。	○	○	◎	○

視能訓練士学科(昼間部1年制)

9 8 8

系列	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	1年		講義概要	DP1	DP2	DP3	DP4
						前期	後期					
専 門 分 野	基礎視能矯正学	視能矯正学総論Ⅰ Basic Orthoptics I	必修	講義	30	(2)	30		◎	○	○	
		視能矯正学総論Ⅱ Basic Orthoptics II	"	"	30	(2)		30	◎	○		
		生理光学Ⅰ Physiological Optics I	"	"	45	(3)	45		◎	○	○	
		生理光学Ⅱ Physiological Optics II	"	"	15	(1)		15	◎	○	○	
		生理光学実習 Physiological Optics(lab)	"	実習	60	(2)	60			◎	○	○
	視能検査学	視覚生理学Ⅰ Visual Physiology I	"	講義	45	(3)	45		◎	○		
		視覚生理学Ⅱ Visual Physiology II	"	"	15	(1)		15	◎	○	○	
		視覚生理学実習 Visual Physiology(lab)	"	実習	60	(2)	60			◎	○	○
		視能検査学Ⅰ Orthoptic Examination I	"	講義	30	(2)	30				◎	○
		視能検査学Ⅱ Orthoptic Examination II	"	"	15	(1)		15			◎	○
		視能検査学実習 Orthoptic Examination (practical training)	"	実習	30	(1)	30			◎	○	○
	視能障害学	眼科薬理学 Ophthalmic Medication	"	講義	15	(1)	15		◎	○		△
		神経眼科学Ⅰ Neuro Ophthalmology I	"	"	45	(3)	45		◎	○		
		神経眼科学Ⅱ Neuro Ophthalmology II	"	"	30	(2)		30	◎	○		

視能訓練士学科(昼間部1年制)

9 8 8

系列	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	1年		講義概要	DP1	DP2	DP3	DP4	
						前期	後期						
専門分野	視能矯正学各論Ⅰ Detailed OrthopticsⅠ	必修	講義	30	(2)	30		両眼視機能検査と眼位の検査について理解し、視能矯正に必要な基礎知識が理解できるようになる。	◎	○			
	視能矯正学各論Ⅱ Detailed OrthopticsⅡ	"	"	30	(2)	30		斜視の各型、内斜視・外斜視・交代性上斜位・その他の斜視の臨床的特徴と検査・治療法について学び説明できるようになる。 弱視の分類、検査・治療法について学び、説明できるようになる。	◎	○	○		
	視能矯正学各論Ⅲ Detailed OrthopticsⅢ	"	"	30	(2)	30		眼振の病因論・分類・治療法について学び、説明できるようになる。 眼球運動障害の検査・治療法について学び、説明できるようになる。	◎	○	○		
	視能矯正学各論Ⅳ Detailed OrthopticsⅣ	"	"	30	(2)	30		麻痺性斜視のほか特殊斜視の臨床的特徴と検査・治療法について学び、説明できるようになる。	◎	○	○	○	
	視能矯正学実習Ⅰ Orthoptics (lab)Ⅰ	"	実習	30	(1)	30		視能矯正学の講義をもとに、弱視検査・斜視検査・両眼視機能検査・眼球運動検査などを実習し、基本的な手技ができるようになる。	○	◎	○	○	
	視能矯正学実習Ⅱ Orthoptics (lab)Ⅱ	"	"	30	(1)	30		視能矯正学の講義をもとに、弱視治療・斜視治療に関わる検査などを実習し、症例検討レポートが書けるようになる。	○	○	◎	○	
	実臨床 習床	臨床実習 Clinical Training	"	"	495	(11)	135	360	学内の講義や実習をもとに、実際の医療現場で実践することができるようになる。また患者との関わり方・医療人としての自覚を再認識し、視能訓練士とはどうあるべきかを考えられるようになる。	○	◎	○	○
対国家 演試 習験	国家試験対策演習 Prep for National Examination	"	演習	30	(2)	30		これまでの総復習を行い国家試験に向けて、出題傾向分析、自己の成績分析ができるようになる。合格レベルの実力を身につけ、さらなる実力の向上を図れるようになる。	◎		○		
総時間数						1485	(69)	855	630				